《第９回演奏会》「モテット全曲」に寄せて

バッハの音楽にもし「合唱芸術の粋」という言葉を当てはめるとすれば、その対象は、モテットを除いては考えられない。カンタータも重要だが、そこでは管弦楽が大きな役割を演じ、独唱曲に、多くの比重が割かれている。しかしモテットは、終始合唱が前面に出て、主役として歌い続けるのである。

だから、バッハを歌う合唱団は、ほとんどがモテットを照準に定めている。だが、その分だけ困難が大きいのも、モテットである。短いモテット１曲が、長いカンタータ２、３曲分のエネルギーと高い技術を要求するとみていいだろう。モテットは聖トーマス教会の聖歌隊のかっこうの訓練素材として用いられたはずだというのが、近年提起されている考えである。

私は、バッハのすばらしさが、伝統的な問題意識を持ち続けたところにあると思っている。バッハは時代の流行に流されることなく、ルター派教会音楽を守り育てた一族の先達と同様、この世の生の現実を見つめ、来世を振り仰ぐ態度を失わなかった。モテットは、そういう精神態度が集約的にあらわれたジャンルでもある。そこにはオペラ風のレチタティーヴォやアリアがあらわれず、聖書から選ばれた言葉とコラールが結びついて、合唱へともたらされているからである。

東京バロック・スコラーズがいよいよモテットに挑戦することの意味は、上記から明らかだろう。熱心に勉強を重ね、三澤洋史さんの核心を突いた指揮によってバッハの真髄に分け入ってきたこの合唱団は、モテットとの真摯な取り組みを通じて、新しい段階へと到達するにちがいない。

礒山　雅（国立音楽大学招聘教授　日本音楽学会会長）

飛翔する言葉たち／三澤洋史

この演奏会を聴いて、みなさんがどのモテットも同じように感じたら演奏会は失敗である。あるいは、信仰から発した言葉が、ほとばしる情熱となってみなさんの心に響いたりせず、みなさんの人生の中でもかけがえのないひとときを作り出せなかったら、やはり演奏会は失敗である。

バッハの声楽曲では、言葉が全ての創造の原点となる。言葉を音楽化することはレトリック（修辞学）のひとつの方法であると考えられていた。信仰の言葉は、その内容を生かす音楽的テーマを見つける。それが発展・展開していって、ひとつの楽曲を成していく。それは、言葉のメッセージをより確実に聴く者に伝えたいというレトリックの精神と一致しなければならない。「マタイ受難曲」でさえ、その方法論によって貫かれているから、あの長大な楽曲中たった一曲のシンフォニア（器楽曲）すらない。

その精神が凝縮し、６つの珠玉の作品となったのがモテットだ。だから、東京バロック・スコラーズの演奏するモテットは、発せられた言葉たちが音楽に乗って飛翔し、互いに呼び交わし、乱舞し、演奏空間に充ち満ちて、みなさんの心を深く揺さぶるだろう。

モテットでそんな演奏会が出来るの？　と懐疑的なあなたは、是非会場に足を運ぶべきである。

【指揮者】
三澤　洋史

新国立劇場合唱団指揮者。1999 年より 2003 年まではバイロイト音楽祭にて祝祭合唱団の指導スタッフの一員として活躍。バッハには深く傾倒しており、「21 世紀のバッハ」を追求するために 2006 年 1 月、「東京バロック・スコラーズ」を立ち上げ、音楽監督に就任。これを核に「今」を生きる人と音楽の輪を広げている。

Violoncello／西沢　央子

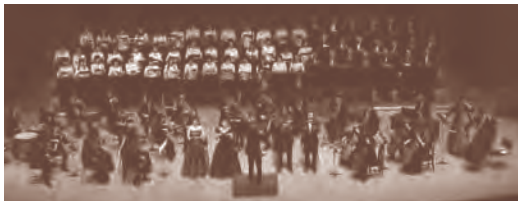
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学器楽科を卒業。チェロをヴァーツラフ・アダミーラ、三木敬之、レーヌ・フラショの各氏に師事。また、オルガンを鈴木雅明氏に師事。大学在学中は「バッハ・カンタータ・クラブ」に所属し小林道夫氏の指導の下、通奏低音奏者を務める。フリーランスのチェロ及びヴィオローネ奏者として、「東京バッハ・モーツアルト・オーケストラ」「オーケストラ・リベラ・クラシカ」「バッハ・コレギウム・ジャパン」などの演奏会、録音に数多く参加している。「コレギウム・アルジェントゥム」「メディオ・レジストロ」「ラ・バンド・サンパ」「コントラポント」メンバー。
日本イタリア古楽協会会員。計歌会会員。国立音楽大学音楽研究所非常勤研究員及び東京学芸大学非常勤講師。

Contrabass／櫻井　茂

学習院大学及び東京藝術大学卒業。コントラバスを笠原勝二、吉川英幸、西田直文、江口朝彦の各氏に師事。また、藝大バッハ・カンタータ・クラブにおいて小林道夫氏の薫陶を受ける。一方、ヴィオラ・ダ・ガンバを大橋敏成、ローレンス・ドレイフュスの両氏に師事、またキャサリン・マッキントッシュ、ヤコブ・リンドベルイ、シェティル・ハウグザンらにアンサンブルの指導を受ける。独奏者として国内各地及びイギリス、アイルランド、ノルウェー、アメリカ、韓国等で活動。H. ヴィンシャーマン指揮ドイツ・バッハ・ゾリステン、T. コープマン指揮アムステルダム・バロック・オーケストラ等の来日公演に出演。L. ドレフュス主宰のコンソート「ＰＨＡＮＴＡＳＭ」には１９９４年の創設プロジェクトに参加以来、度々客演する。ヴィオローネ奏者としてはバッハ・コレギウム・ジャパン等の古楽アンサンブルに参加。
東京藝大管弦楽研究部及び高知大学非常勤講師を経て、上野学園大学准教授。
延世大学（ソウル）音楽研究所古楽専門課程特別招聘教授。

Organo／浅井　美紀

東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。在学中、安宅賞およびアカンサス音楽賞受賞。
横浜みなとみらいホール・オルガニスト・インターンシップ第１期修了。
オルガンを池田泉、廣野嗣雄、早島万紀子、三浦はつみ、通奏低音を今井奈緒子、廣野嗣雄、チェンバロを故小島芳子の各氏に師事。
これまでに東京藝術大学助手、青山学院高等部講師を務めたほか、全国各地において演奏会を行っている。また合唱団やオーケストラとの共演にも積極的に取り組んでいる。現在、青山学院高等部オルガニスト、水戸芸術館「幼児のためのパイプオルガン見学会」オルガニスト。
日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。



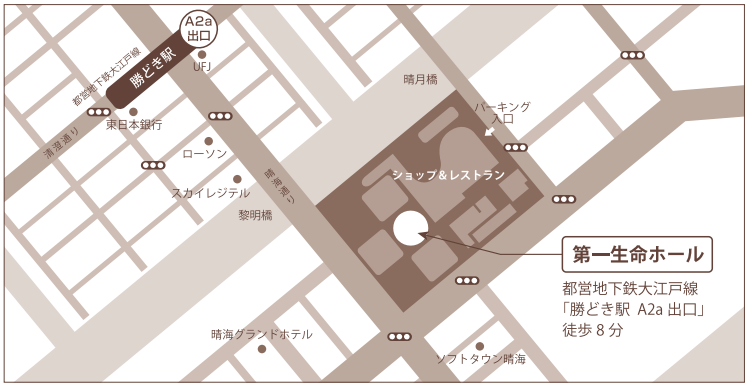
合唱：東京バロック・スコラーズ

三澤洋史のもとで「21 世紀のバッハ」を追求しようという志を共有する合唱団。団員はオーディションによって選ばれたアマチュアからなる。
演奏のみならず、公開レッスンや講演会など、多角的な活動を行っている。また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。

「団員募集　　バッハを一緒に歌いませんか？」

東京バロック・スコラーズでは、毎回演奏会終了後に、一緒にバッハを楽しみ、ステージを作り上げていく仲間を募集しています。次の入団オーディションは 2013 年 6 月以降の予定です。詳しくはホームページのオーディションページをご覧下さい。

第一生命ホール



〒104-0053　東京都中央区晴海 1-8-9　TEL 03-3532-3535